

特集

JBCC 2016

日本ビジネススクール・ケース・コンペティション
Japan Business School Case Competition 2016

JBCC (Japan Business School Case Competition) は、国内のビジネススクールで学ぶ社会人大学院生が与えられた企業再生に関するオリジナルケースに対して戦略提言を競うものです。

JBCC本選の様子

7月17日(日)、慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて、JBCC2016本選が開催されました。RBSからは14期生の鈴木剛さん、15期生の鈴木秀範さんを代表とする2チームが出場しました。RBSから2チーム以上の予選通過は初の快挙であり、当日はRBSから在學生、OB、先生方など大勢が応援に駆け付けました。書類審査による予選を勝ち抜いた20チームによるセミファイナルでは、それぞれ個性を生かしたプレゼンテーションを披露しました。残念ながらRBSの2チームはグランドファイナルには進むことはできませんでしたが、RBSの存在を大いに示した大会となりました。

(15期生 山本 壘)



JBCC2016実行委員より

今年は、21校165チーム598名のエントリーがあり、過去最高のエントリーチーム数になりました。RBSからも激しい戦いを勝ち抜いて14期生と15期生の2チームが晴れて日吉の舞台に立つことが出来ました。実行委員として、RBSから3年連続の本選出場者を送り出すことが出来て大変うれしく思います。来年こそはより多くのRBS生にエントリー頂き、是非とも初のファイナル進出を目指してがんばって下さい。来年はOBとして日吉に立教の旗振りに出かけたいと思います。

(14期生 向田 晶彦)

JBCC2016実行委員として学内、学外での活動を通し、MBAコースで学びながら、同時並行でアウトプットし、学びを確認できたことは貴重な経験でした。そして今回はRBSから過去最多の予選突破2チームと、出場者含め仲間たちと緊張感と高揚感を共有できるチャンスに恵まれました。限られた時間の中で自分なりの活動意義を見出し、更に自己の強みや感性を広げる機会としてぜひ来年も多くの方に活用いただければと思っています。

(14期生 亀田 さおり)

鈴木 剛チームより

我々のチームは全員2年生で、一丸となって取り組みました。それぞれが強みを最大限発揮したことや、研究科の皆さんからの助けもあり、なんとか本戦に出場することができました。ご協力いただいた皆さんには、この場で感謝を申し上げます。我々の最大の学びは、チームとして大きな目標に取り組む楽しさでした。JBCCでは企業再生というテーマに取り組めますが、それを自分たちなりに考え、エビデンスを持って伝えることは、今までに経験したことがないくらい大変な作業です。だからこそメンバーが協力し合い、個人の強みを活かすことを考え、それが最大の楽しさになるよう心がけていました。後から続く方には、「楽しむこと」を忘れずに来年のJBCCに取り組んでいただきたいと思います。

(14期生 鈴木 剛)



【チームメンバー】(左から)池田 慶子/豊崎 勝啓/鈴木 剛

鈴木 秀範チームより

ケース配布から予選、本選へと激動の2か月でした。私たちは入学して間もなく、エントリー締切日当日に偶然同じテーブルに座っていた4人です。しかも、男女、日本と中国、それぞれ2名ずつとダイバーシティを地でいくメンバー編成なのです。そこから始まったJBCCの戦いは企業経営と同じなのかもしれません。多くの時間をチームビルディングに費やし、お互いに分かってもらうまで説明して判断を下す。それは時間とも戦いながらストーリーの質を上げていく作業の毎日です。私たちは1年生らしく奇抜な成長戦略で本戦も勝ち抜くつもりでしたが、他チームとの力の違いを見せつけられ、悔しく一段と勉強意欲が高まった一日となりました。本当に素晴らしい経験をさせて頂きました。

(15期生 鈴木 秀範)



【チームメンバー】(左から)鈴木 秀範/向 格/張 剣秋/山本 寿子